# 第４回宇治市観光振興計画策定委員会　議事録

**日時　令和４年 11 月 24 日（木）　15：00～17：00**
**場所　うじ安心館３階　大会議室**

**出席者**
委員長　坂上　英彦
委　員　藤原　直樹
　〃　　片山　明久
　〃　　中村　藤吉
　〃　　山仲　修矢
　〃　　脇　博一
　〃　　堀井　長太郎
　〃　　後藤　英之
　〃　　神居　文彰
　〃　　荒木　將旭
　〃　　佐脇　至
　〃　　酒井　勇治

オブザーバー　長谷川　理生也
　　〃　　松田　敏行
　　〃　　多田　重光

**事務局**
産業観光部部長　脇坂　英昭
産業観光部副部長　前田　聖子
産業観光部観光振興課課長　木田　陽子
産業観光部観光振興課副課長　山田　裕之
観光振興課観光企画係係長　辰己　義人
観光振興課観光企画係主任　大原　豪
観光振興課観光企画係主任　西井　利治

**資料**

- 第４回宇治市観光振興計画策定委員会 次第
- 宇治市観光振興計画策定員会 委員名簿
- 第２期宇治市観光振興計画初案　資料１
- 基本理念（案）について　資料２
- 前期アクションプランコンセプト（案）について　資料３
- 今後のスケジュール　資料４

１．開会

２．議事

（１） 第２期宇治市観光振興計画初案について　資料１ 資料２ 資料３

事務局より資料１ 資料２ 資料３について説明

および資料１の訂正箇所の報告。

委員長：

前回までの意見を検討、反映をした上で初めて計画の全体像が提示された。今回が実質的に意見を反映できる最後の機会であると思う。忌憚のない意見や質問をいただきたい。

委員：

前回の議事録は提示されないのか。

事務局：

この場での用意はしていないが、後程、提示する。

委員：

資料１の２ページの「１－２　計画の位置づけ」で「観光の振興は行政だけで推進していけるものではなく、観光事業者をはじめ、宇治市観光協会やお茶の京都 DMO、市民、行政等が適切な役割分担のもと取り組んでいくことが重要です。」とあるが、行政の中に京都府や京都府観光連盟等も入るという認識でよろしいか。

事務局：

京都府は行政、京都府観光連盟は宇治市観光協会やお茶の京都 DMO 等といった関係機関という認識をしている。

委員：

ここから計画の具体的な内容について質問していくが、まずは資料１の 14 ページ以降の「３－６　アクションプラン」について意見を申し上げる。

「１－（１）　①天ケ瀬ダム周辺の周遊観光の推進【重点項目】」で、天ケ瀬ダムについて取り上げていただき大変嬉しく思っている。天ケ瀬ダムは国土交通省のインフラツーリズムの取組にも採用されている。駅から歩ける貴重なダム施設という点は非常に強みなので追記をしてほしい。

続いて、15 ページの「１－（２）　①放ち鵜飼の伝承・推進」について、先日から新聞等にも取り上げられ、いよいよ本格的な実施に喜んでいる。「国内では宇治でしか行われていない」とあるが、国外ではどこか実施しているのか。宇治が世界唯一と言えるのかどうか。

事務局：
　実施しているとすれば中国ではないかと思うが、ここで断言はできない。

委員：
　調べていただいて他に事例がなければ、世界唯一と謳っていきたい。
　同じく、15 ページの「１－（３）　①朝から楽しめる観光の推進」は非常によいと思う。興聖寺のパンフレットには朝５時から拝観できると書かれているが、萬福寺のパンフレットにはそのことについて書かれていたか。

委員：
　萬福寺は朝９時からの拝観としている。早朝拝観は予約を入れていただければ対応している。

委員：
　次回パンフレットを作成する機会があれば、その旨についても入れていただけるとアピールになると思う。
　続いて、20 ページの「３－（１）　④お茶と宇治のまち歴史公園の活用」に「旅行会社や鉄道会社等と連携しながら PR を行い、集客を図ります。」とあるが、その通りである。しかし、現状では鉄道会社と茶づなは、ほとんど連携できていない。宇治駅を降りた観光客から茶づながどこにあるのかとよく聞かれる。今後はしっかりと連携していただきたい。
　同じく、20 ページの「３－（２）　②歴史や文化でつながる周遊観光の推進」に「地域間で連携した周遊観光を推進します。」とあるが、大賛成である。2023 年に完成予定の犬打峠トンネルによって、山城南部地域とのアクセスが向上してくると思うので、その旨を追記されるとより具体的な内容になるかと思う。
　続いて、21 ページの「３－（３）　②京都観光客の宇治への誘客」は非常に重要だと思っている。京都駅に京なびという観光案内所がある。来年、JR 奈良線の複線化完了のタイミングで、そこに宇治に特化したコーナーを設置して京都観光客に向けたより具体的な発信や仕掛けづくりをしてはどうか。今秋は観光客もたくさん戻り、京なびも超満員状態となっている。
　大阪・関西万博の文言が記載されているが、京都館といったようなパビリオンは造られる予定なのか。

委員長：
　関西パビリオンが造られる予定である。

委員：
　そこでは、お茶を紹介するコーナーは考えられているのか。

委員長：
　京都府が負担するスペースは確保できているので、京都府の中でどのような展示内容にしていくか、そこにどう宇治が入り込んでいくかが課題だと思われる。

委員：
　京都府にとってお茶は一番の農産物であるので、今からアピールしていきたい。パビリオンが完成してからでは遅いので、後手に回らないように願いしたい。

委員長：
　パビリオンではデジタルコンテンツが多く採用されると思われるので、そこに適した形で働きかけるとよいと思う。

委員：
　最後に、27 ページの「３－８　計画の進行に向けて」で各組織の役割がしっかり明記されていて非常によいと思う。「②観光協会等の役割」の「異業種間や各種団体間の連携、調整を行い」とあるが、業種・団体だけでなく、地域間連携についても追記をしてほしい。

委員：
　２点、意見を申し上げる。
　１点目は、20 ページの「３－（１）　市内周遊性の向上」で先程、委員から、茶づなと鉄道会社との連携不足と意見があったが、おそらく周遊案内看板の不足が大きな原因だと思う。特に徒歩移動の旅行者のための案内看板は、まだまだ整備を進めていかなければならない。
　２点目は、26 ページの「３－７　数値目標」で定量的な数値目標を設定することは結構だが、一方で前段のアクションプランの「５－（１）　戦略的な情報発信」でも掲げられているように、ニーズが非常に多様化してきているので、調査手法をはじめ様々なマーケティング手法を多面的に実践していく必要がある。定量的だけではなく定性的な部分にも着目し、綿密な調査計画を練っていくべきではないか。上手く取り入れて戦略的な情報発信につなげてほしい。

委員：
　前期アクションプランを誰に見てもらうのか。行政の協議資料とするのか、それとも市民に見てもらうのか。どういった視点で策定や発行をしていくのかが重要ではないかと思う。仮に、市民や事業者の方が、このアクションプランを見ると考えたときに、伝わりづらいの

ではないかと思った点が４点ある。
　１点目は、13 ページの「３－５　計画の体系」について、基本方針が３つあり、その下に観光戦略と施策の展開が５つあるが、基本方針のそれぞれ３つが、どの観光戦略と施策の展開につながっているのかが分かりづらい。基本方針の３つの柱の下に、それぞれにあたる観光戦略と施策の展開が降りてくるような図の方が分かりやすいのではないか。
　２点目は、14 ページ以降の「３－６　アクションプラン」の実施年度を示す矢印がすべて同じとなっているので、図を省略して言葉で説明してもよいのではないか。
　３点目は、宇治市を訪れる旅行者のペルソナ（外国人、学生、シニア層等）それぞれのセグメントに対して、どのアクションプランが有効であるかが記載されているとよいと思う。
　４点目は、26 ページの「３－７　数値目標」について、目標値のすべての内訳において極めて高い目標値が設定されているが、逆に縛り付けることになるのではないか。前期アクションプランで効果がありそうな目標をいくつかに絞って取り組んだ方がよいのではないか。

事務局：
　計画の体系については、観光戦略と施策の展開が必ずしも３つの基本目標に振り分けられるわけではなく、重複してくる内容もあるため、現状ではこのような図としている。

委員長：
　数値目標についてはどうか。

事務局：
　委員の意見の通り、重点的に取り組む項目を絞り、実現性についても精査していく。

委員長：
　現状値が低い項目が取組としては重要となってくるので、星印をつける等、表現方法を検討してはどうか。

委員：
　20 ページの「３　広域的な観光の推進」で大阪・関西万博の記述があるが、大阪から伏見港までの舟運が進められているので、宇治までの舟運についても、できれば追記をしてほしい。
　14 ページの「１－（１）　①天ケ瀬ダム周辺の周遊観光の推進【重点項目】」に、ダム湖の活用についても追記をしてほしい。
　16 ページの「１－（４）　②ものづくり産業との連携」で「地元企業と連携したオープンファクトリーツアー」とあるが、今後、事業として展開するのであれば、用途地域の見直しについても検討いただきたい。

事務局：

大阪・関西万博での舟運の連携は、水辺のにぎわいや天ケ瀬ダムとの周遊観光について現状どこまでの内容を記載できるか調整していく。

オープンファクトリーツアーは既に産業振興課で実施している。大阪・関西万博のタイミングも考慮して、さらに規模を広げていきたい。用途地域の見直しということではなく、現状のツアーをもう少し膨らませるといったイメージを持っている。

委員：

２年程前に、お茶の京都 DMO でもオープンファクトリーツアーを実施した。宇治市内の企業に協力いただき１日で３、４社訪問した。定員の半数程が埋まり、参加者アンケートでも大変好評だったので今後も継続していきたいが、協力企業を増やすことが課題である。多くの市民が興味を持っている企業からは、なかなか協力していただけない。宇治の活性化のために行政にも協力を願いたい。

京都市ではオープンファクトリーツアーをあまり実施していないので、周辺地域から取組が広がっていけばよいと思う。

委員長：

オープンファクトリーツアーは参加した大学生の就職先となるケースもある。単に観光施策だけではなく、企業の人材確保の側面もある。

委員：

数値目標は絞った方がよい。

前回、基本理念とコンセプトについて随分議論された上での提案だと思うが、仮に市民に向けた基本理念と考えたときに、意味が受け取りやすい文章にするのがベターである。「宇治のブランド力を未来へ織りなす」は、主語は分かるが目的語が分かりにくいので、意味が受け取りにくいのではないか。提案として、「宇治のブランド力が未来を織りなす」の方が意味を受け取りやすいのではないか。

コンセプトについては、「新たな時代に輝く宇治の観光まちづくり」とされているが、これでは「観光まちづくり」が輝いているということになる。「観光まちづくり」は手段であって成果ではないので、「観光まちづくり」が輝くのは違和感がある。

また、資料１の 15 ページの「１－（２）　②大河ドラマと連携した取組の推進【重点施策】」について、大河ドラマと観光についての研究では、テーマが放送の２年半前に決定され、放送中が盛り上がりのピークで、放送終了後２年半で元の状態に戻るとされている。そのサイクルを踏まえると、源氏物語や大河ドラマファンだけではなく、歴史や古典ファンも意識した施策を盛り込んだ方がよいと思う。

委員：
「宇治のブランド力を未来へ織りなす」は、我々に向けた基本理念ということであれば理解できるが、観光施策は来訪者のためのものであり、意図が違ってくるのではないか。
資料１の 22 ページの「４－（１）　③観光推進のための人材育成」について具体的なイメージが浮かばない。予算をとって何をどのように推進していくのか。

事務局：
現在も観光協会では、事業所に向けて語学研修などを実施している。京都府観光連盟でも宇治を会場とした観光人材研修が実施されている。

委員長：
これは継続的な事業というイメージでよろしいか。

事務局：
そうです。

委員：
事業者、行政、市民も計画の対象ではあるが、一体どれだけの市民がこの計画について知っているのか。市政だよりや市ホームページでの周知や閲覧はされていると思うが、わざわざチェックする市民も少ない。商店街の加盟店には周知をしているが、計画についての認知はまだまだ低いので、発信方法を考えていかなければならない。

委員長：
委員の意見は、資料１の 27 ページの「３－８　計画の進行に向けて」において追記してはどうか。市民、事業者への分かりやすい計画内容や周知方法についても課題となる。

委員：
全体的にはきれいにまとまっていると思う。
資料１の 20 ページの「３　広域的な観光の推進」で、これから回復するインバウンド客や大阪・関西万博も契機となり、これから周遊観光が重要となってくるので是非とも力を入れて取り組んでほしい。
資料１の４ページの「２－２（２）　⑤宇治市での平均滞在時間および１人あたりの観光消費額」で 1 人あたりの観光消費額が平成 28 年度調査より金額がかなり上がっているが、何か理由はあるのか。また、調査時期やサンプル数などの調査概要についても明記した方がよいのではないか。

事務局：
　資料１の 30 ページの（資料６）の項目別１人あたりの消費額をみると、主に飲食とその他が上がっている。その他の内訳には体験参加料金が含まれており、近年、体験型の施設も増えているのでその影響もあるかと思われる。
　調査時期は、コロナの影響もあり７月～８月の夏休み期間中に実施した。平成 28 年度調査では秋の行楽シーズンや冬から春にかけてシーズンといった長期間で実施し、かつ、サンプル数も当時の方が多いので、そういった影響が出ているのではないかと思うが、詳細な分析はできていない。
　今年度調査のサンプル数は 1,025 件、平成 28 年度は 2,153 件である。

委員長：
　平成 28 年度調査の方が信憑性は高いので、単純に前回調査より増加したと言い切らない方がよい。

委員：
　資料１の４ページの「２－２（２）　①性別・年代」で「年代別では、20 代が 23.9%と一番多く」とあるのも、調査時期が夏休み期間中であったために、このような結果となったのではないか。これを一般的な結果として記載するのはいかがなものか。

委員長：
　本文では注釈を入れた方がよいと思う。

事務局：
　オープンファクトリーの現状について説明させていただく。

産業振興課長　：
　産業振興課では、2020 年２月から市内のものづくり企業を巡るオープンファクトリーツアーを実施している。
　2021 年は残念ながらコロナの影響でオンラインでの実施となったが、小学生対象のオープンファクトリーツアーは、今年度、夏休み期間中に実施した。子どもたちからは大変興味を持っていただき定員８名に対し約 10 倍の申し込みがあり、産業観光としてのポテンシャルを実感している。
　また、近畿経済産業局でも 2025 年の大阪・関西万博に向けて、オープンファクトリーを活性化していこうと思案しているようである。今後は京都府や宇治商工会議所とも連携しながら、より広範囲から宇治地域を巡ってもらえるような取組を検討していきたい。

委員：

まず、市民に我々がどういったことに取り組んでいるのかを知ってもらうべきである。

先程の観光推進のための人材育成の話で、英語が話せることは強みではあるが、トラブルが発生したときの対応までできるかといえば難しい。おもてなしや宇治にお迎えする心意気を市民全体で醸成していかなければならない。よって観光振興の中心となる人材育成は重要となる。

先程の産業振興課課長の報告に感銘を受けた。オープンファクトリーには大変期待している。

今はほとんどの人が第一次産業について知らない。かつて、京都文教大学には田んぼがあり、女子学生が一から稲を育てていた。市民にそういった取組に目を向けてもらうことも重要である。

委員：

先週土日に９年ぶりに宇治で全国お茶まつりが開催された。９年前は歩行者天国などの賑わいがあったが、今回は茶づなと塔の島の２会場となり、来場者が分散してしまった。最近は人出が少なくなってきているように感じる。利き茶巡りやスタンプラリーなど実際に体験できるイベントが少なくなっている。昔はお茶屋で協力して宇治を盛り上げていくような動きがあったように思う。

また、茶づなの来館者数が苦戦している。館長にお聞きすると、全国お茶まつりよりもパンフェスタの方が、人出があったようである。資料１の７ページの「観光の課題（強み）」にも「「宇治茶や世界遺産などのように全国に誇れるものがある」は 45.2%に留まっています。」とあるように、お茶はもっと努力しないと集客できないことを痛感している。やはりオンラインではなくリアルで各所を巡り、滞在時間を多くとっていただける催しの方がよいのではないか。

委員：

先日、萬福寺のアピール方法を考え実践するという内容の授業で、宇治黄檗学園の小学６年生が萬福寺のために色々と取り組んでくれた。１つのクラスでは萬福寺にまつわるモチーフの消しゴムハンコを作って、スタンプラリーを実施してくれた。他のクラスでは一般の方に拝観案内や座禅のレクチャーをし、保護者をはじめたくさんの方にお越しいただけた。さらに子どもたちは萬福寺には３つの目玉（布袋さん、開梛、売店）があるといって、宣伝文句まで作ってくれた。子どもたち自身が楽しみながら参加し、役に立っているという実感が得られる貴重な機会であった。

子どもたちや市民の活躍の場をつくっていくことも観光振興の重要な側面ではないか。

委員：

コロナ禍で痛手を受けた事業者はたくさんいる。徐々に回復傾向にあるとはいえ、コロナ

前に比べたらまだまだである。また、生活や観光のスタイルも変化してきている。初案ではこれまでの方法では通用しないということを踏まえて、様々な提案していただいていると思う。宇治商工会議所の中でも計画についての認知が低いので、周知していきたい。

委員長：
　コロナ前と比べて夜に出歩く時間が少なくなってきており、京都市内の飲食店も以前は２、３回転していたところが、ほぼ１回転となってしまっているようである。そうすると１回転でより単価を上げていかざるを得ない。ビジネスコンテンツ自体を変革していかなければならないのではないか。大阪・関西万博の時にはなんとか元に戻りそうな気がするが、夜に出かける習慣自体がなくなっているようにも思う。
　また、マイカー率も非常に高くなっている。車への問題を放置すると大変なことになりかねない。一方、これまでマイカーで来訪していた比較的裕福な高齢者層が、自主返納によって徐々に来訪が減少していくことも予測される。地方部ではより重点的に問題に対応していかければならない。

委員：
　資料１の 10 ページの「前期アクションプラン期間中に予定されているトピックス」を見ると、宇治は非常にトピックスに恵まれている。前期アクションプランでしっかり取り組んでいかなければならない。
　策定後も当委員会でしっかり検証していくことも重要である。

**（２） 今後のスケジュールについて　資料４**
　事務局より資料４について説明

**（３） その他**
委員長：
　情報共有等はあるか。

委員：
　宇治東のインターチェンジを降りたあたりに設置されている案内看板の距離表示が間違っているので、修正していただきたい。

事務局：
　黄檗地域の観光案内サインの整備は今年度実施予定である。ＪＲ黄檗駅周辺については駅改良工事が完了次第の実施となる。

委員長：
　以上を持って閉会する。

事務局：
　熱心なご議論に感謝申し上げる。
　４回にわたって様々な意見をいただいたので、事務局でしっかりと受け止め、よりよい計画策定と施策の実行をしていきたい。